

令和3年度 自己評価計画書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1. 不断の授業改善により、生徒の主体的な学びを高め、3年間・5年間を見通した学力・技術の向上を図るとともに、国家試験全員合格を目指す。	① ICT機器を活用した協働学習を取り入れることにより、生徒の主体的な思考を促す。	教務課	昨年度、協働学習の機会が減少した。新しい生活様式を踏まえた協働学習を効果的に実施し、思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。	【努力指標】 協働学習の場면을適切に設定している。	「先生は、協力して学ぶ機会を設けている」と評価した生徒の割合が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C 以下の場合 は、授業形態、 授業内容を再検討する。	生徒による授業評価を7月・12月に実施する。
	② 主体的な思考を促す発問や学習課題を提示することで自ら学ぶ意欲を高める。	教務課	知識・技能の定着に意欲的な生徒が多い。獲得している知識を応用する力を育成する必要がある。	【満足度指標】 事例検討や調べ学習など、生徒の主体的な学びの場면을適宜設定している。	「分からないことは質問したり、調べたりして理解するようにしている」と自己評価した生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満 である。	C 以下の場合 は、授業形態、 授業内容を再検討する。	自分自身の学習の取り組みに対する評価を7月・12月に実施する。
	③ 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	衛生看護科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 看護師国家試験演習の偏差値の目標レベルを全生徒が達成している。	偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1～2人 C 3～4人 D 5人以上 である。	B 以下の場合 は、個別指導を行う。	看護模試（全国）を実施し、評価する。

		専攻科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	<b>【成果指標】</b> 〈専攻科1年生〉 看護師国家試験演習の個々の得点率が必修問題80%未満、または、一般・状況設定問題60%未満の生徒が0人である。  〈専攻科2年生〉 看護師国家試験演習の専門科目の偏差値40未満の生徒が0人である。	〈専攻科1年生〉 看護師国家試験演習の個々の得点率が必修問題80%未満、または、一般・状況設定問題60%未満の生徒が A 0人 B 1～2人 C 3～4人 D 5人以上 である。  (専攻科2年生) 偏差値40未満の生徒が A 0人 B 1人 C 2人 D 3人以上 である。	B 以下の場合 は、個別指導を行 う。  B 以下の場合 は、個別指導を行 う。	看護模試（校内・全国）を実施し、評価する。  看護模試（全国）を実施し、評価する。
④	<1年生> 教科小テスト、漢字・英単テスト等の学習方法を指導することで、家庭学習を習慣化する。  <2年生> 毎日の課題をチェックすることで、家庭学習を習慣化する。	健康福祉科	<1、2年生> 家庭学習の習慣化が十分にできていない。	<b>【成果指標】</b> <1年生> 小テスト等の正答率65%以上の生徒の割合が100%である。  <2年生> 毎日の課題を提出する生徒の割合が100%である。	<1年生> 小テスト等の正答率65%以上の生徒の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 である。  <2年生> 毎日の課題を提出する生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。	<1年生> C 以下の場合 は、個別指導を行 う。  <2年生> C 以下の場合 は、個別指導を行 う。	月毎に結果を確認する。  自学ノートの取組状況を毎日チェックし、その集計を月毎に行う。

	<3年生> 分野ごとの小テスト や個別指導を実施 し、専門知識の確 実な定着を図る。		<3年生> 国家試験演習で一定レベ ルに達していない生徒が いる。	<3年生> 国家試験演習及び国 家試験の個々の得点 率65%以上の生徒 の割合が100%で ある。	<3年生> 国家試験演習及び国家試験の 個々の得点率65%以上の生 徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 である。	<3年生> C以下の場合 は、取り組み方 法を検討する。	国家試験演習 毎に結果を確 認する。
--	--	--	--	--	--	---------------------------------------	--------------------------

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2: 本校の学び を通して、看護師・介護福祉士 に求められる 健康な心身と コミュニケーション力の育 成を図る。	① 「田鶴浜高校い じめ防止基本方 針」に基づいて、 いじめのない学 校作りを推進す る。	生 徒 指導課  教 育 相談課	「いじめを絶対許さない という意識」が高い生徒 は多いが、学校のような 共同生活の場では人間関 係のトラブルは起こり得 るものであり、生徒のい じめ防止への意識を常に 持たせなければならない。	【満足度指標】 講演会や授業を通し て人権教育の啓発を 図ることで、「いじめ を絶対に許さないと いう意識」が「大い に高まった」「高まっ た」の割合が95% 以上である。	生徒アンケートで「互いの人 格を尊重し、いじめを絶対に 許さないという意識」につい て、「大いに高まった」と「高 まった」の回答が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 とする。	C以下の場合 はいじめの未然防 止の取組の見直 しをする。	6月、11月 に全校生徒を 対象とした 「いじめアン ケート」を実 施する。
	② 立ち止まって丁 寧に挨拶をする ことができるよ う継続指導する。	生 徒 指導課	立ち止まって目上に敬意 をもって挨拶する指導を しているが、年度が改ま ると挨拶が雑になる生徒 も見られ、継続した指導 が重要である。	【満足度指標】 保護者アンケートで 「立ち止まって 挨拶している」の回 答が90%以上であ る。	保護者アンケートで「立ち止 まって挨拶している」の回答 が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 とする。	C以下の場合 は取組・指導法 の見直しをする。	7月、12月 の保護者懇談 会の際に、ア ンケートを実 施する。

	③	部活動の活性化のため、実習などで参加人数が減少する時期に合同部活動を実施する。	生徒会	実習、行事準備などがあり、部活動の参加人数が減少する時期がある。	【満足度指標】 参加人数が減少する時期に合同部活動を実施し、生徒がその活動に満足感を得ている。	合同部活動後のアンケート結果で満足と答えた生徒が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 である。	C 以下の場合 は、来年度に向けて、時期や方法を検討し直す。	実施競技などは生徒会執行部を中心に考え、合同部活動後のアンケートで判断する。
	④	心身が健全で粘り強い生徒の育成を目指し授業、部活動、学校行事等を通し3分間走、全力走を行う。	保健体育科	体力テストの結果、昨年春から秋にかけて生徒個々の記録の向上見たが多くの種目において県、全国と比較し劣っている。	【成果指標】 新体力テストの20mシャトルランに加え、反復横跳びを春と秋の2回計測し、秋の記録が春より向上している。	秋の記録が春より向上している生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 である。	C 以下の場合 は個別指導を行う。	計測は体育時に行う。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3: 本校の特色ある教育活動や、地域の医療・福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。	① 情報誌、ホームページ、動画などを活用し、本校の教育活動と生徒の様子やその成果を可視化する。	教務課	地域の医療機関・福祉施設等との連携が図られている。看護・福祉への道に関心のある中学生はいるが、本校の教育活動や将来性が十分に伝わっていない。	【成果指標】 学校説明会の参加者が、本校の教育活動や将来性を理解している。	学校説明会での説明で「本校の教育活動が理解できた」の回答が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 である。	C 以下の場合 は、説明内容と方法の見直しをする。	

	②	産業教育フェア、体験入学、学校説明会、出前授業、生徒の母校訪問などを通して、衛生看護科の魅力を発信する。	衛生看護科	5年一貫教育における看護師養成について、中学校教諭及び保護者、生徒の理解が十分とは言えない。	【成果指標】 中学校教諭及び保護者、生徒が、本校の5年一貫教育による看護師養成教育について理解している。	体験者アンケートで「5年一貫教育による看護師養成教育の理解が深まった」の回答が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 である。	C 以下の場合 は、広報活動の方法の見直しをする。	産業教育フェア、体験入学、学校説明会、出前授業などの際、その都度アンケートを実施する。
	③	情報誌やホームページによる本校の情報発信に加え、ICTを活用した健康福祉科の教育活動や魅力の発信をする。	健康福祉科	健康福祉科の教育活動や魅力について、小・中学生やその保護者、小・中学校教諭の理解が十分ではない。	【成果指標】 小・中学生やその保護者、小・中学校教諭が、健康福祉科の教育活動や魅力について理解している。	体験者アンケートで、健康福祉科に対する理解が深まったという人数の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 である。	C 以下の場合 は、発信内容や発信方法の見直しをする。	教育活動毎にアンケート等を実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4. 教職員の業務改善の意識を高め、多忙化の解消に努める。	① 時間外勤務を減少させるため、業務分担の適正化を図る。	管理職	昨年度の時間外勤務の平均が45時間未満である教員の割合が70.6%でありA評価であった。	【努力指標】 多忙化改善とワークライフバランスの見直しのため、学校業務の平準化を図り、時間外勤務時間が縮減している。	具体の取組を積極的に進め、一月あたりの時間外勤務時間が45時間未満の教員の割合が、 A 75%以上 B 65%以上 C 55%以上 D 55%未満 である。	C 以下の場合 は、改善方法を再検討する。	毎月の勤務時間記録をもとに判断する。